

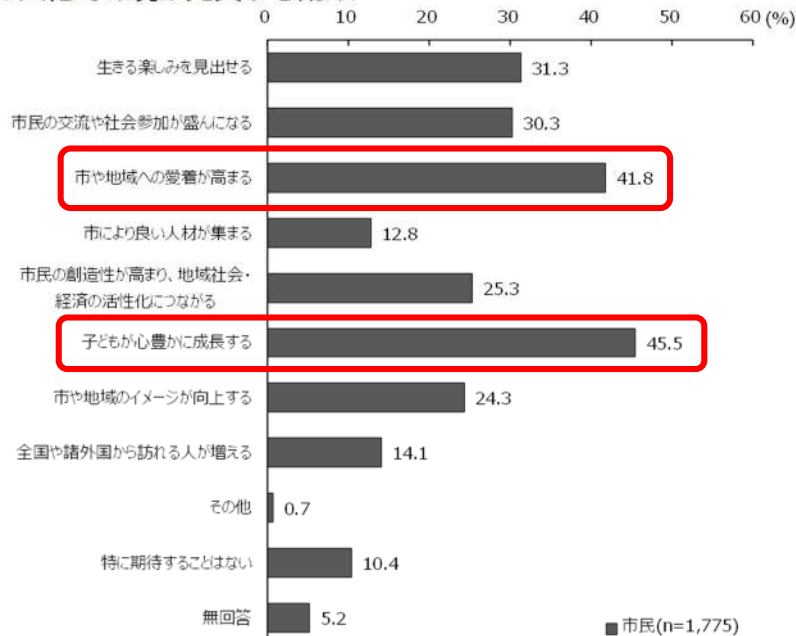
現状分析（豊田市の教育に関するアンケート調査）

調査期間	対象	配布数	有効回収数	回収率
令和6年 8月～9月	市民	3,700人	1,775人	48.0%
	小学生（5年生）	1,700人	1,624人	95.5%
	中学生（2年生）	1,450人	1,323人	91.2%
	保護者	3,150人	1,882人	59.7%

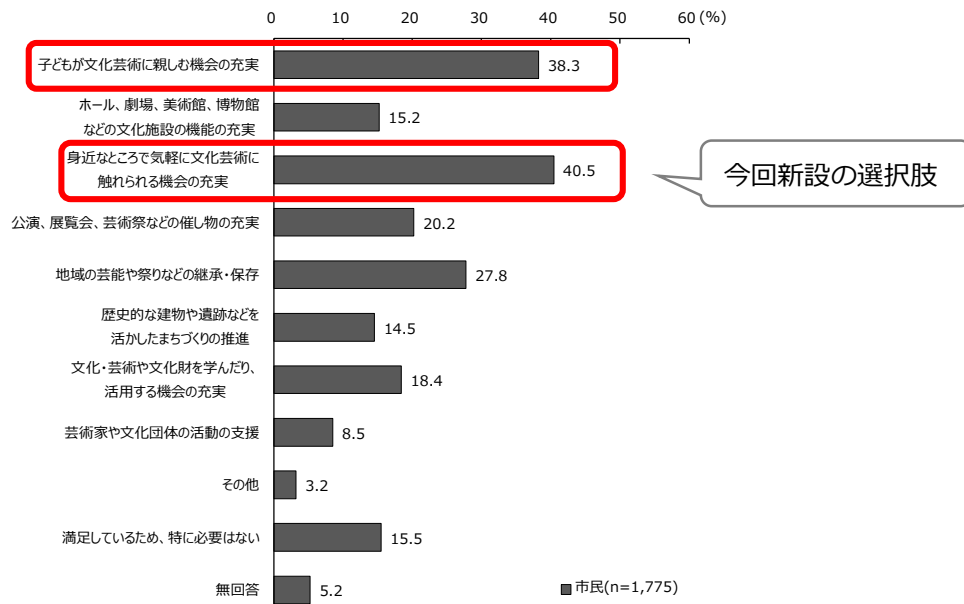
（1）市民の文化芸術への期待

- ・市民が地域の文化的環境の充実によって期待する効果は、前回調査と同様、「子どもが心豊かに成長する」「市や地域への愛着が高まる」の回答が最も多かった。
- ・文化的環境の充実に向けて求めることとしては、今回調査から選択肢に加わった「身近なところで気軽に文化芸術に触れられる機会の充実」の回答が最も多く、次に前回調査に引き続き「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」の回答が多かった。

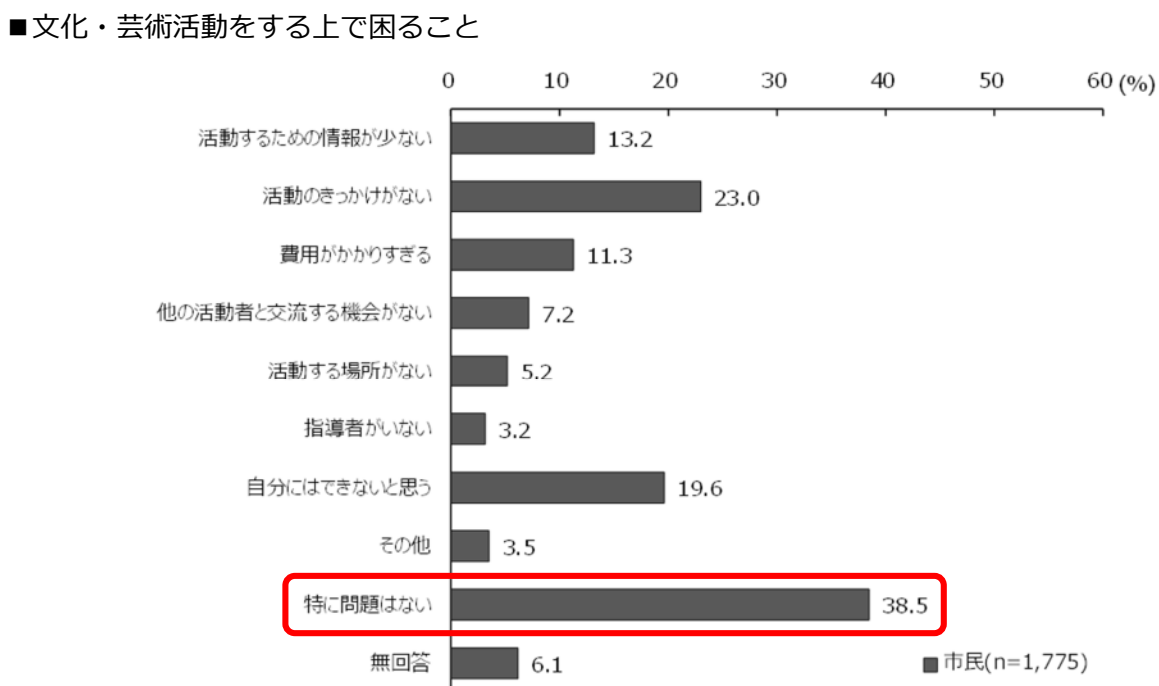
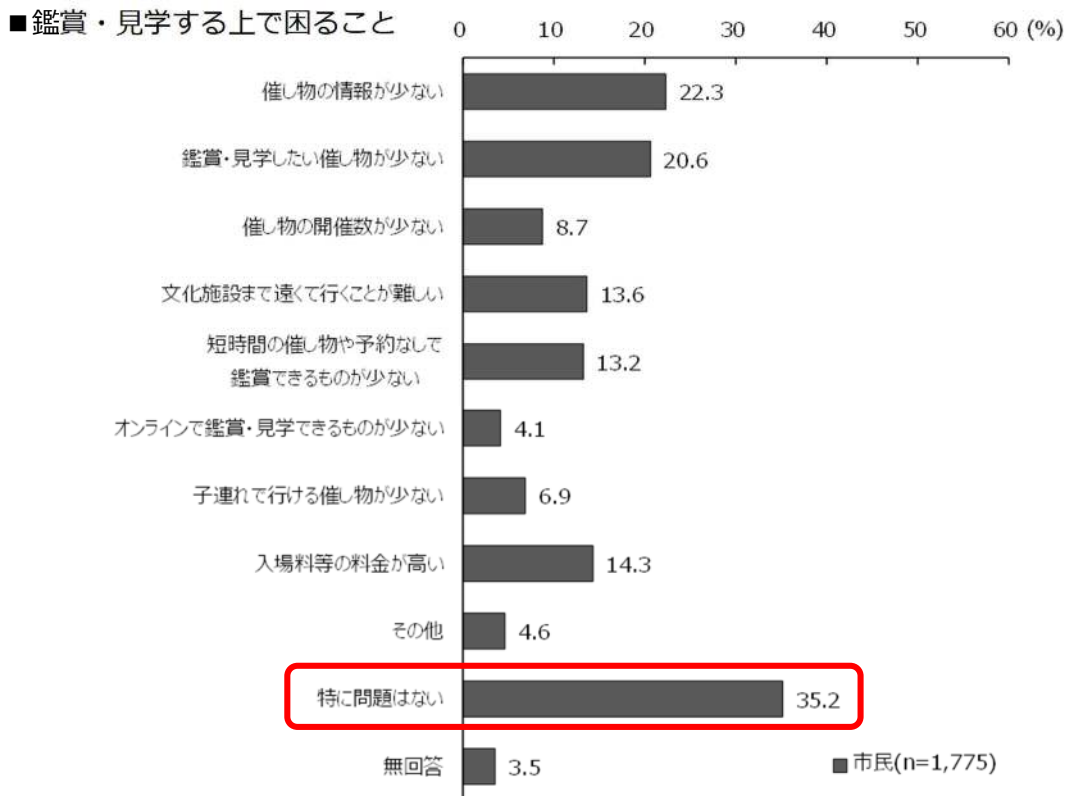
■地域の文化的環境が充実する効果



■地域の文化的環境の充実に向けて求めること



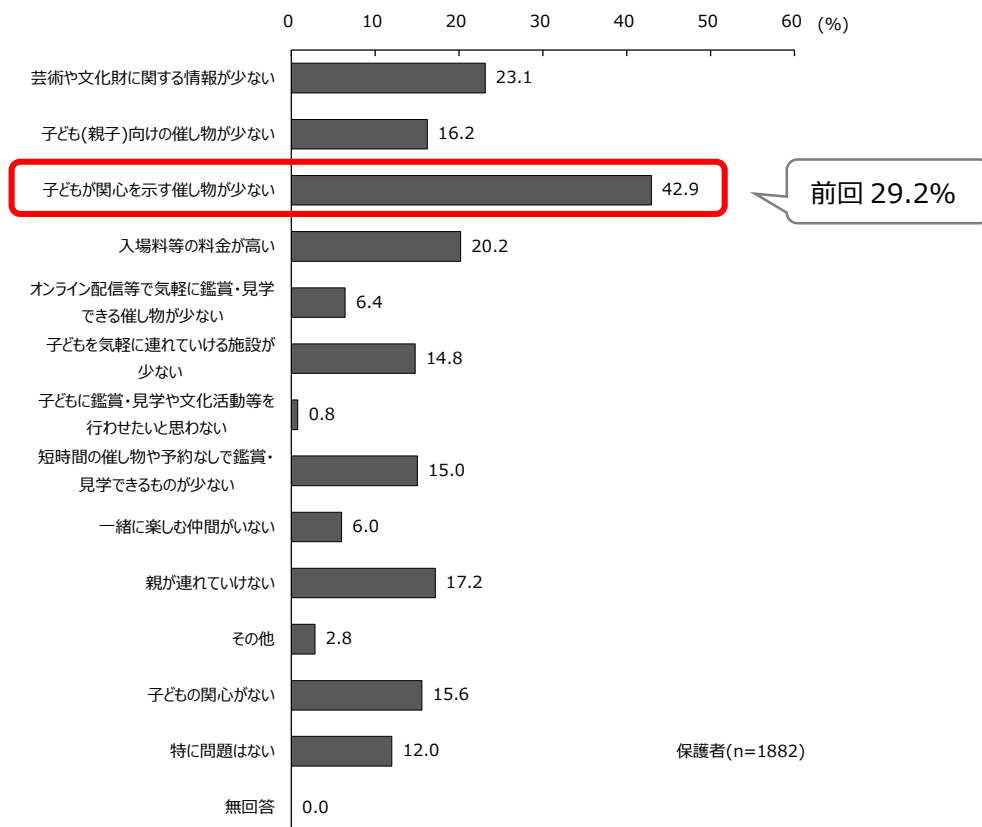
- ・市民が鑑賞・見学する上での困りごととしては、「特に問題はない」が最も多く、前回調査よりも上昇した。次点については、前回調査と同様、「催し物の情報が少ない」「鑑賞・見学したい催し物が少ない」が上位であったが、前回調査より上昇した項目は無かった。
- ・市民が文化芸術活動する上での困りごととして、「特に問題ない」が最も多く、前回調査より上昇した。次点については、前回調査と同様、「活動のきっかけがない」「自分にはできないと思う」が上位であった。



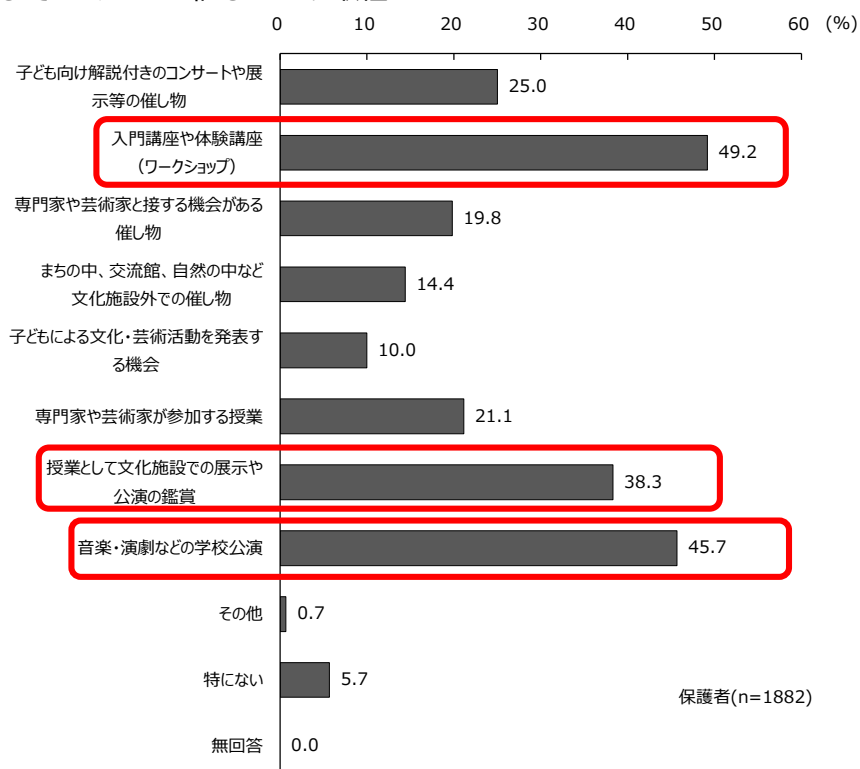
(2) 保護者から見た子どもと文化芸術

- ・保護者が子どもの鑑賞や活動について困っていることは、前回調査と同様、「子どもが関心を示すものが少ない」の回答が最も多かった。前回調査から大幅に増加しており、突出して多くなった。
- ・子どもの鑑賞や活動の充実に向けて求めることとしては、「入門講座や体験講座（ワークショップ）」「音楽・演劇などの学校公演」「授業として文化施設での展示や公演の鑑賞」の回答が最も多かった。

■子どもの文化鑑賞・活動で困ること



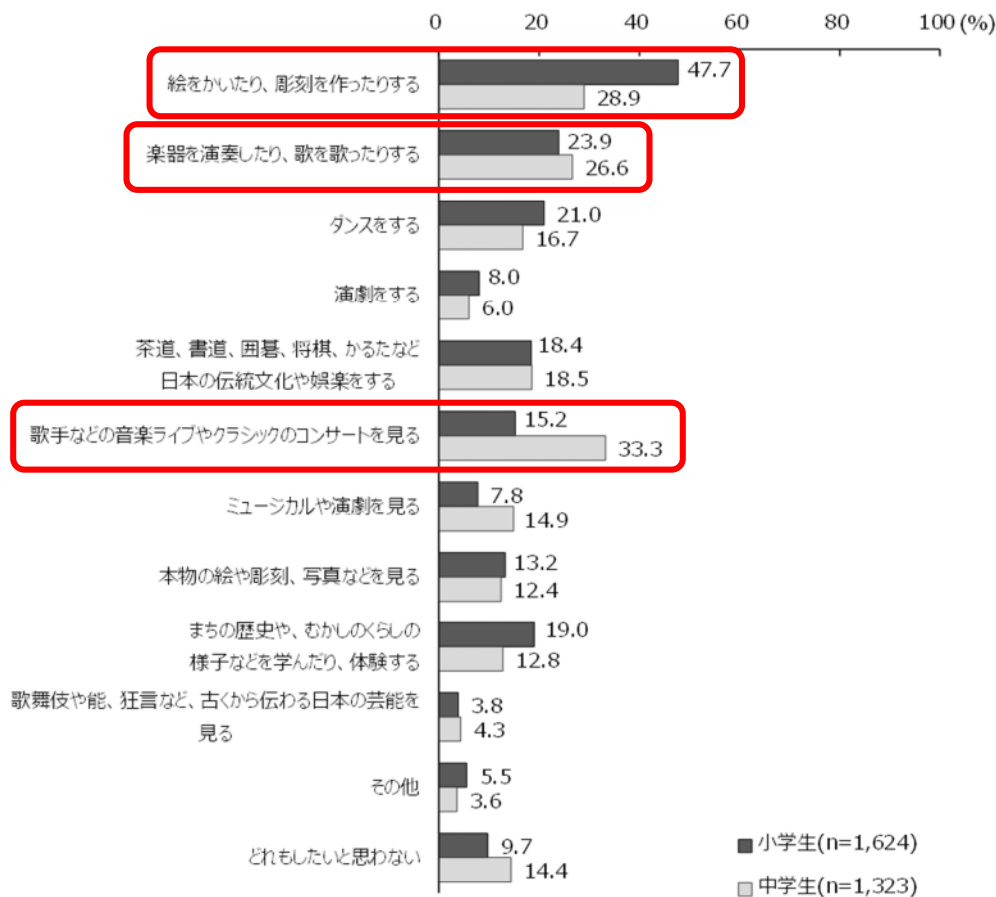
■充実していくとよい催しものや取組



(3) こどもと文化芸術

- ・小学生がしたい鑑賞や活動は、前回調査と同様、「絵を描いたり、彫刻を作ったりする」の回答が突出して多く、次に「楽器を演奏したり、歌を歌ったりする」の回答が多かった。
- ・中学生がしたい鑑賞や活動は、前回調査と同様、「歌手などの音楽ライブやクラシックのコンサートを見る」が最も高く、次に小学生と同様に「絵を描いたり、彫刻を作ったりする」「楽器を演奏したり、歌を歌ったりする」の回答が多かった。

■文化鑑賞や文化活動の傾向と内容〔小学生、中学生〕

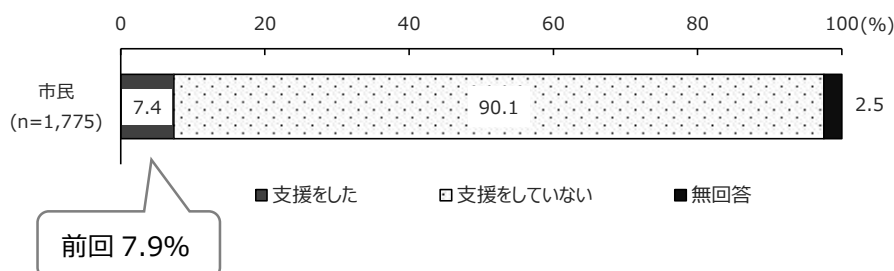


(4) 文化芸術を支える市民

- ・前回調査と比較し、ボランティアなど日頃から文化芸術を支援している市民の割合は減少した。

■この1年間に文化・芸術活動の支援等をしたことがあるか

(芸術祭や文化施設等でのボランティア活動、子どもの文化体験講座等の手伝い、文化イベントの運営費を寄附など)



【総括】

- ・多くの市民は、文化芸術はこどもが心豊かに育つために大事なものという認識が高く、こどもたちにたくさん触れてほしいと考えていることが分かった。こどもたちは、「みる」より「する」ことが好きで、保護者もこども向けの体験機会やきっかけが充実して欲しいと考えていることから、**そのニーズを捉えて、今後もより一層、こどもの体験機会を充実させていきたい。**
- ・また保護者の多くは、こどもたちに学校生活の中で文化芸術に触れる機会の充実を求めていることが分かった。学校生活の中で触れられる機会づくりは一定程度取り組まれているものの、一律に十分な機会を提供することは難しくなっているため、**今後、家庭や地域といった身近な場所でより文化芸術に触れ易くしていく必要がある。**
- ・注視すべき点として、保護者の「こどもの文化芸術鑑賞や活動に対する困りごと」として、「こどもが興味を示す催し物が少ない」という回答が突出していることが挙げられる。こどもの文化芸術への興味自体は上がってはいるものの、趣味や娯楽の多様化など時代の変化が現れている結果とも推察される。**時代の変化を捉え、今後は、単にこども向け企画を実施するのだけではなく、アウトリーチ型の企画等を検討していく必要がある。**
- ・もう一点として、文化芸術を支援している市民の割合が前回調査よりも下がっていることが挙げられる。**文化芸術を通じた様々な交流の輪を広げるためにも、今後は、文化芸術を支える人を掘り起こしていく必要がある。**